

「わかりやすく伝える力」を育成する
- 情報を整理する技術の指導を通して -

カリキュラム開発課 長期研修員 鈴木 秀輝

1 主題設定の理由

これからの変化の激しい社会を生きていく子どもに求められる能力の一つとして、「伝え合う力」が挙げられる。多種多様な人々との間で、どれだけ相手の意をくみ取り自分の意を伝えられるかは、今日的課題である。

「小学校学習指導要領」(2008年3月告示)国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」であり、このことから「伝え合う力」の育成が、これからの社会に求められていることがうかがわれる。

島田市立北中学校区には所属校を含む4小学校があり、すべてが単学級又は複式学級の小規模校である。どの学級も温かい雰囲気である反面、児童に自分の意見を積極的に話そうとする態度、話し手の意見を聴き取る力が十分に育ってないという実態がある。このような実態を受け、2006年度からコミュニケーション能力の育成を重点とした取組を続け、人間関係力の育成を目指している。そこへ、2007年に県教育委員会から「国語力向上プロジェクト(注1)」の指定を受け、この校区で身に付けさせたい国語力を「伝え合う力」とし、それまでの取組との関連を図りながら研究を進めている。

昨年度末に行われた北部地区研修推進委員会(注2)では、各校から出された児童生徒の課題として、「論理的に筋道を立てて話す力が身に付いていないこと」、「自分の言葉で自分の思いを伝える力が身に付いていないこと」が挙げられた。また、所属校では、「自分の考えは持てても、それを整理して話す力が身に付いていないこと」が挙げられた。

自分の伝えたいことを思い付くままに話しても、相手に理解してはもらえない。相手に理解してもらうためには、「わかりやすく伝える力」を育成する必要がある。自分の伝えたいことを明確にし、それをわかりやすく伝えるための技術が求められるが、その技術の一つとして、情報を整理する技術が挙げられる。(ここでいう情報とは、自分の考え・思いやそれらの根拠となる材料等のことを指す。)

「自分の考えは持てても、それを整理して話す力が身に付いていない」という所属校の課題を踏まえたときに、情報を整理する技術の指導が有効であると考えた。本研究では「情報を整理する技術」に焦点を絞り、所属校においてその指導法を探ることとした。

2 研究の目的

「わかりやすく伝える力」を育成する手だてとして、「情報を整理する技術」に焦点を絞った取組を計画的に講じ、その有効性を国語科授業における話し合い活動を通し検証する。

3 研究の方法

- (1) これまでの文献や研究報告書等を読み「わかりやすく伝える力」について押さえる。

- (2) 「わかりやすく伝えること」について、所属校の児童の実態を把握し、課題を明らかにする。
- (3) 「情報を整理する技術」を身に付けさせるための取組を計画的に行う。
- (4) 国語科授業を通して、「情報を整理する技術」を身に付けさせるための取組の有効性を検証する。

4 研究の内容

(1) 「わかりやすく伝える力」について

ア 文化審議会答申（2004年2月）に示された望ましい国語力の具体的な目標

文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」の「第3 望ましい国語力の具体的な目安」の中に、「話す力」の具体的な目標として次のように示されている（資料1）。

【資料1】文化審議会答申に示された「話す力」の具体的な目標

- (2) 「話す力」について
- 1) 自分の考えを明確にして、説得力を持って論理的に伝えることができる
 自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした論理的な話し方ができる。
 相手の話を受け、その内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる。
 会議や集会などで、自分の考えや意見を適切に発表することができる。
 - 2) 相手や場面・目的に応じ、伝えるべき内容を分かりやすく話すことができる
 他者に配慮した（不快感を与えない、傷つけない）話し方ができる。
 話し合うことによって、相手との人間関係を深めることができる。
 場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。
 敬意表現を適切に使った話し方ができる。
 - 3) 発声・発音・態度などを相手や場面に応じて、コントロールできる
 他者の前で落ち着いた態度で話すことができる。
 聞き取りやすい音声（音量・速さ・声の調子など）で話すことができる。
 大事なところを強調したり、間の取り方を工夫したりできる。

文化審議会答申の中から、本研究の「情報を整理する技術」に該当するものとして「自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした論理的な話し方ができる。」が挙げられる。

それは、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えるためには、まず自分の考え・思いを整理して、何を伝えるのかを明確にすることが求められ、さらに、自分の考えを持つに至った根拠や理由も整理して、筋道立てて話すことが求められるからである。

なお、「わかりやすく伝える力」について「話す力」に着目したのは、島田市立北中学校区の研究「コミュニケーション能力の育成を重点とした、人間関係力の育成」からであり、「コミュニケーション」を、会話による伝え合いととらえているからである。

イ 学習指導要領解説（2008年8月）に示された話すことの具体的な目標

「小学校学習指導要領解説 国語編」に、各学年の「A話すこと・聞くこと」の目

標の解説が示されている。その中で、「話すこと」に該当する部分が次のように示されている（資料2）。

【資料2】目標の解説の中で「話すこと」に該当する部分

第1学年及び第2学年

話すことについては、「事柄の順序を考えながら話す能力」を示している。話すためには、自分で内容を構成することが必要となる。低学年では、話す内容を構成することは容易ではないので、最初に取り上げる事柄の順序に沿って考えるようにし、次第に経験したことの順序や物事が起こった順序などに気を付けて話すようにする工夫が必要である。

第3学年及び第4学年

話すことについては、「筋道を立てて話す能力」を示している。物事の順序はもちろん、調べて分かった事柄や事実などの順序などに基づいて、自分の思いや願い、伝えたい中心を位置付けたり、相手に分かりやすく伝えられるように構成や内容を考えたりするものである。ここでは、自分の考えや意見の筋道が明確であることとともに、相手が理解しやすい筋道であることも大切にしなければならない。

第5学年及び第6学年

話すことについては、「的確に話す能力」を示している。目的や意図に応じるために、話の構成や内容を一層的確にすることが求められる。具体的には、取り上げる事柄について十分調べたり考えたりして理解し、話の構成や内容、考えたことや伝えたいこと、言葉違いを一層的確にすることが求められる。

学習指導要領解説の中から、本研究の「情報を整理する技術」に該当するものとして、以下のものが挙げられる。

「第1学年及び第2学年」

取り上げる事柄の順序に沿って考えるようにし、次第に経験したことの順序や物事が起こった順序などに気を付ける

「第3学年及び第4学年」

物事の順序、調べて分かった事柄や事実などの順序などに基づいて、自分の思いや願い、伝えたい中心を位置付けたり、相手に分かりやすく伝えられるように構成や内容を考えたりする

「第5学年及び第6学年」

取り上げる事柄について十分調べたり考えたりして理解し、話の構成や内容、考えたことや伝えたいことを一層的確にする

小学校では、内容をより一層わかりやすく伝える力が求められており、そのためには話を的確に構成する力も必要となってくる。構成要素として、話の順序、話の中心を位置付けること、筋道を明確にすること等が挙げられている。

ウ 「わかりやすく伝える力」

ア、イを踏まえ、本研究における「わかりやすく伝える力」を「自分の考え・思いを明確にし、相手や場面・目的に応じて筋道を立てて話す力」と押さえた。また、その中で本研究が焦点を当てている「情報を整理する技術」に該当するものは「相手や場面・目的に応じて筋道を立てる」ことととらえ、それを育成するために必要な力を以下のようにとらえた。

「第1学年及び第2学年」

取り上げる事柄や経験したこと、物事が起こったこと等の順序を整理する力

「第3学年及び第4学年」

自分の考え・思いを伝える際に、調べて分かった事柄や事実などの順序に基づいて伝えたい中心を位置づける、など構成する力

「第5学年及び第6学年」

取り上げる事柄について十分調べたり考えたりして理解し、話の構成や内容を明確にする力

(2) 所属校児童の実態と課題

ア 児童の実態

(ア) アンケート調査から

対象：所属校の4・5・6学年児童、計30人

島田市立北中学校区にある4小学校（以下北部4校）のうち所属校を除いた3校の4・5・6学年児童、計112人

島田市内にある中規模校（学年3学級程度）の協力校2校の4・5・6学年児童、計466人

時期：2008年7月中旬

質問：「国語科授業で、話すときに気を付けていることを教えてください。（記述）」

【資料3】質問に対して「わかりやすく伝える力」にかかわる回答をした児童数と内容

		所属校	所属校を除いた北部3校	市内協力校
調査した児童数		30	112	466
回答した児童数		4	19	85
%		13.3	17.0	18.2
回答内容	わかりやすく伝えること	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが分かる言葉を使う ・自分の言葉で話す ・要点が伝わるように話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが分かる言葉を使う ・言い方を換えて話す ・短くまとめて話す ・話す順序を整理して話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが分かる言葉を使う ・相手がわかりにくそうだったら言葉を換えて話す ・必要な言葉を選んで話す ・短くまとめて話す ・一番伝えたいことをはっきりさせる ・話す順序を整理して話す ・具体的な例を挙げて話す ・理由をはっきりさせて話す ・頭括型で話す
	相手意識		・相手の反応を見ながら話す	・相手の反応を見ながら話す

「わかりやすく伝える力」にかかわる回答は上のとおりであった（資料3）。所属校は、市内協力校や北部3校と比べて数値が低いことが分かる。また、他校と比べると「短くまとめて話す」、「順序を整理して話す」、「理由をはっきりさせて話す」等、「わかりやすく伝えること」にかかわる回答が少ない。さらに「相手の反応を見ながら話す」のように、「相手意識」にかかわる回答も見られなかった。このことから、「相手にわかりやすく伝えようとする意識が低いこと」が分かった。これは、児童の多くが「わかりやすく伝えるための技術」を知らないからであろう。

(1) 授業記録から

対象：所属校4・6学年

時期：2008年9月中旬

「わかりやすく伝えること」の児童の実態を把握するため、国語科の授業で実際に話し合っている様子をビデオカメラで撮影した。撮影した記録の中から、児童の発言を紙面に起こし分析をした。そこから明らかになった課題は次の3点である。

- ・相手に情報を伝えるための工夫をしていない。
- ・話す内容が整理されておらず、何を伝えたいのかが分からない。
- ・教師や黒板の方を向いて話す児童が多く、仲間に伝えようとしていない。

イ 児童の課題

児童の実態から明らかになった課題を整理すると次のようになる。

「わかりやすく伝えること」

- ・相手に情報を伝えるための工夫をしていない。
- ・話す内容が整理されておらず、何を伝えたいのかが分からない。

「相手意識にかかわること」

- ・相手にわかりやすく伝えようとする意識が低い。
- ・教師や黒板の方を向いて話す児童が多く、仲間に伝えようとしていない。

わかりやすく伝えるための技術を身に付けていけば、それに伴って相手に伝えるための言葉が必要になり、そのことで言葉の獲得も図られていくと考えた。また、わかりやすく伝えるための技術を身に付け、相手に伝えるために必要となる言葉を獲得していけば、相手に伝わるという実感が得られ、よりよく伝えようとする意識も高まっていくと考えた。

以上のことから、本研究では、主に「相手にわかりやすく伝えるための技術を身に付けること」を扱い、同時に、児童の実態から明らかになった「相手にわかりやすく伝えようとする意識を高めること」も扱うこととした。

なお、島田市立北中学校区が静岡県教育委員会から指定を受けており、その取組と関連させて小・中学校の連携を踏まえ、小学校高学年の児童（4年生～6年生）を研究の対象とした。

(3) 「情報を整理する技術」を身に付けさせる取組

ア 情報を整理する技術の内容

所属校の児童の課題の一つが、「わかりやすく伝えるための技術が身に付いていないこと」である。わかりやすく伝えるためには、「情報を整理する技術」が必要であり、それを「主張を明確に伝える技術」と「主張の根拠となる材料を整える技術」ととらえた。そして、具体的には次のような技術を考えて。

「主張を明確に伝える技術」

頭括型：結論を先に述べ、その後で理由を述べる

ラベリング：新聞の見出しのように短い言葉で述べる

「主張の根拠となる材料を整える技術」

ナンバリング：一つ目、二つ目のように数字で整理する

必要な情報の選択：情報の中から必要なものを選ぶ

順序：情報を「時系列」、「全体から部分」、「抽象から具体」等の視点から並べ替える

イ 「情報を整理する技術」を身に付けさせるための日常的な指導

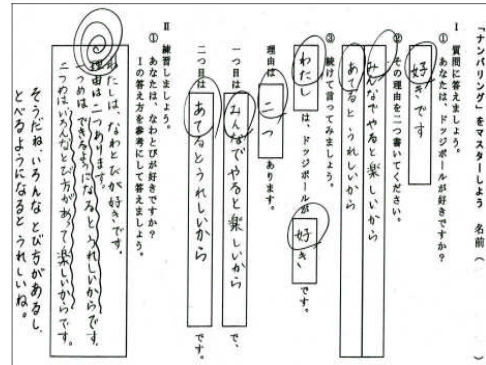
(ア) 朝学習

ねらい： ～ の技術を身に付けさせる

内容：事前に、三森ゆりか氏(つくば言語技術教育研究所所長)の著書を参考に、ワークシートを作成した(資料4)。児童は、その教材に示された ～ に関するワークに取り組んだ。朝学習の15分間を利用した。

回数：週に1回程度

【資料4】作成したワークシートの例



(イ) 朝スピーチ

ねらい： ～ の技術を身に付けさせる

内容：日直が、事前にスピーチメモを作成し、朝の会でスピーチをした。「家での出来事」、「最近関心のある事」等からスピーチの話題を選び、タイトルを付けた。必要な情報を選び、話す順序を考え、自分の感想を加えたものをスピーチした。

回数：毎日(一人の児童には2週間に1回程度)

ウ 「情報を整理する技術」を身に付けさせるための授業

朝学習や朝スピーチで取り組んだ内容の定着を図るため、国語科の授業において、計画的に以下の表のような取組をした(資料5)。

【資料5】国語科の授業で扱った内容

	1回目	2回目	3回目
ねらい	を身に付ける	を身に付ける	を身に付ける
授業日	2008年9月29日 4年生第2校時 6年生第4校時	2008年10月17日 4年生第3校時 6年生第5校時	2008年11月12日 4年生第2校時 6年生第5校時
内	「わたしは ～ が好きです」 ・頭括弧型で主張を述べた後にその理由を明確に伝える。 ・理由は複数考えナンバリングを使って説明する。	「どちらがわかりやすいかな」 ・情報伝達の原則を知る。 ・順序を替えた2種類の伝え方を聞き、絵にかいてみて、どちらがわかりやすいか理由を考える。	「必要な情報を選ぼう」 ・相手によって必要な情報が違うことを知る。 ・具体的な場面を設定し、必要な情報を選択する。
容	わたしはフルーツが好きです。 理由は二つあります。 一つ目はあまくておいしいからです。 二つ目はみずみずしいからです。 ぼくは野球が好きです。 理由は二つあります。 一つ目はヒットを打つと気持ちいいからです。 二つ目はいいプレーをするとみんながほめてくれるからです。	ア 窓があります 屋根は三角です ドアがあります 窓は左側で丸くドアは右側です これは家の絵です イ これは家の絵です 屋根は三角形です 右側にドア、左側に丸い窓があります ・初めに何の絵か言うとうわかりやすい ・いきなり窓と言われてもわかりにくい ・大きい部分から説明するとわかりやすい ・同じ部分の情報はまとめた方がいい	「たてわり班遊びのお知らせ」を下級生に伝えるとき、次の情報を必要なものと必要でないものとに分ける。 ア 11月26日にやる イ ブランコの前に集合する ロ 8時20分まで遊ぶ エ 終わったら手洗い、うがいをする オ おにごっこをする カ 寒さに負けないために体を動かす キ 8時5分までに集まる ク 赤白ぼうしを持ってくる ケ 3班と一緒に遊ぶかもしれない コ 2班のお知らせだ

エ 「相手にわかりやすく伝えようとする意識」を高める取組

児童のもう一つの課題として「相手にわかりやすく伝えようとする意識が低いこと」がある。その意識は技術の向上に伴って高まると思われるが、朝学習や授業等で扱った技術を教室内に掲示したり、技術を使った児童の発言をその場で取り上げて価値付けたりすることで、更に意識を向上させたいと考えた。

(ア) 思考メモ

「わかりやすく伝えることの習慣化」をねらいとして、教科の学習を問わず様々な学校生活の場面で使えるような「思考メモ」を作成し、教室内に置いた(資料6)。

「思考メモ」に主張と根拠を分けて書くことにより、児童の発言は主張が明確になり、主張の根拠となる材料も整うようになってきた。児童は、自信を持って発言するようになった。

(イ) わかりやすく伝えるための「虎の巻」

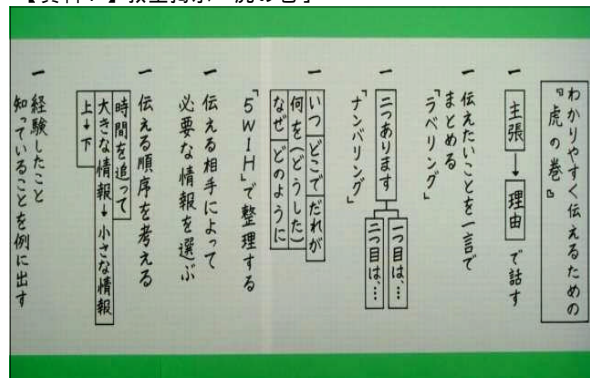
朝学習や授業等で学んだ「情報を整理する技術」を児童が普段から意識できるよう、教室内に「虎の巻(資料7)」として掲示した。

児童はそれを、ノートに考えをまとめるときや発表をするときの参考とした。児童に、「虎の巻」に書かれた技術を発表の中で積極的に使おうとする姿が見られるようになった。

【資料6】思考メモの使用例

「ろうかの右側歩行について」

【資料7】教室掲示「虎の巻」



(4) 「情報を整理する技術」の検証

ア 検証の内容

(ア) 検証の方法

- ・「情報を整理する技術」の検証を目的とした、話し合いを取り入れた国語科授業をし、その状況を録画する。
- ・記録した児童の発言を聴き取り、紙面に起こす。
- ・「情報を整理する技術」を使った児童の発言を拾い出し、分析する。
- ・同様の条件を設定した授業を2回行い、比較する。

(イ) 対象：所属校4年生12人、6年生11人

(ウ) 実施日：2008年9月 わかりやすく伝えよう - 白山神社にゴミ箱はある? いない?
2008年11月 わかりやすく伝えよう - 運動場にゴミ箱はある? いない?

(エ) 観察方法：ビデオカメラで授業の様子を収録する。

イ 「情報を整理する技術」を評価する観点

「情報を整理する技術」を評価する観点として(3)アで示した情報を整理する技術の中から、「頭括型 ラベリング ナンバリング 必要な情報の選択」の四つを評価の観点とした。「順序」については、学習指導要領では低学年の目標に挙げられている内容であること、また、所属校の高学年の担任から、「朝スピーチ等により、事柄の順序に沿って話す力は十分に身に付いていると思われる。」という実態を聞いたことにより観点から外した。

ウ 検証授業の概要

(7) わかりやすく伝えよう - 白山神社にゴミ箱はある？いない？(2008年9月)

白山神社とは地域にある神社で、児童にとって親しみ深い場所であり、だれもがイメージできる場所でもある。また、地域のだれもが大切にしている場所でもあるため「白山神社をきれいにしたい」という思いを話合いの中心とすれば、意見が出やすいと考えた。

また、本題材は賛成か反対か自分の立場が明確であり、その根拠も多数考えられる。よって、評価の観点とした四つの技術も表出しやすいと考えた。

(1) わかりやすく伝えよう - 運動場にゴミ箱はある？いない？(2008年11月)

小学校は、地域の人々の活動の中心であり、スポーツ少年団等で休日の利用も多い。現在、運動場にはゴミ箱がなく、校門の横にはリサイクルボックスがある。放課後には、おやつを持参して遊びに来る児童も多く、ゴミ箱の存在について考えることは児童にとって意味のあることと考えた。

なお、今回もゴミ箱の有無を題材としたのは、前回の考え方を基に話合いを展開できると考えたからである。

(ウ) 授業展開

(7)(1)の授業は、同じ展開で次のように進めた(資料8)。

【資料8】授業の展開

学習形態	学習活動	評価の観点
一斉	1 話合いを進める上で気を付けていることを確認する	
一斉	2 テーマを知る	
個人	3 自分の考えをもつ	
グループ	4 全体に報告するために班で話し合う ・個人の考えを発表する ・班で話し合う	
一斉	5 全体で話し合う ・班で出た意見を発表する ・全体で話し合う	
個人	6 わかりやすい伝え方について考える	

注) 評価の観点

「主張を明確に伝える技術」 頭括型 ラベリング

「主張の根拠となる材料を整える技術」 ナンバリング 必要な情報の選択

エ 授業の分析

(7) 発言の具体例

児童から評価の観点にかかわる発言が確認できたら、該当のマスに を付けるという方法で右のような表にまとめた(資料9)。

「頭括型」

(4年生)

F: ぼくはいらないと思います。理由は、持って帰ればいいからです。

(6年生)

M: 私は運動場にゴミ箱はいると思います。なぜかという、遊びに来た時や運動会とかの時にあると便利だからです。

「ラベリング」

(4年生)

J: 私はいらないと思います。理由は、工夫して看板で呼び掛けると、持ち帰りを呼び掛けるだけだったけど、どっちも呼び掛けるだから「工夫して呼び掛ける」にしました。

(6年生)

R: ……、いらぬ意見の方は解決方法を考えて、「遊んでいるときにじゃま」という意見には、「じゃまにならない所に置く」ということが出て、「風が強いとゴミが飛ぶ」、「ゴミ箱に入らなかったゴミがそのまま」、「虫がたかるし臭くなる」の意見には、「ふたを付ける」という意見が出ました。

「ナンバリング」

(4年生)

A: 私も「いらぬ」という意見で、理由は二つあります。一つ目は、見た目が汚いからで、二つ目は、入れるのに面倒で、投げて捨てて入らなくてもそのままにしそうだからです。

(6年生)

P: ぼくは三つの理由で迷って、一つは、ソフトをやっていて、ハエなどがいるといやだからで、もう一つは、運動場などでは、あまりゴミが出ないからです。で、もう一つは、遊んでいてゴミが出たりしたらすぐに捨てられていいからです。

【資料9】検証した四つの技術

4年生								
児童	1回目			2回目				
	頭括型	ラベリング	ナンバリング	必要な情報の選択	頭括型	ラベリング	ナンバリング	必要な情報の選択
A								
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								
I								
J								
K								
L								

6年生								
児童	1回目			2回目				
	頭括型	ラベリング	ナンバリング	必要な情報の選択	頭括型	ラベリング	ナンバリング	必要な情報の選択
M								
N								
O								
P								
Q								
R								
S								
T								
U								
V								
W								

「必要な情報の選択」

(4年生)

H:「いる」理由は、「休みの後、ゴミが落ちてる」。

B:休み明けにゴミが落ちてる。でどう? あと、ポイ捨てがなくなる。呼び掛けしてもポイ捨てする人がいる。

J:ポイ捨てがなくなるっていうのも、ゴミが落ちてるってことでしょ。

B:じゃあ「休み明け」とかも取っちゃって「ゴミが落ちているから」でいい?

H:ゴミ箱、気付いた人が掃除する。いる方、いる方。

B:気付いた人が片付ければいい、ってこと。迷うは?

J:迷うはいらんよ、いるといらん理由があるから。

(6年生)

O:8個の理由で悩んでいます。でいい?

M、O:いらん理由は五つあります。いる理由は三つあります。

N:ちょっと多いんじゃない? 言うの選ぶか。

M:動物どうする?

O:やめる?

P:実際分かんないから、やめとくか。

N:「雨にぬれて」っていうのは、今出たことだからやめとくか。

M:うん。じゃあ、この五つでいいじゃんね。

(イ) 成果と考察

検証授業で「情報を整理する技術」を確認できた児童数と、9月と比べて増加した人数を次のような表にした(資料10)。

【資料10】検証授業で技術が確認できた児童数と、9月と比べて増加した人数(人)

	9月	11月	差
頭括型	14	22	+ 8
ラベリング	9	15	+ 6
ナンバリング	7	17	+ 10
必要な情報の選択	1	14	+ 13

注) 4年生と6年生の児童数の合計は23人

このような成果が得られた要因と児童の変容について、次のように考察した。

- ・「頭括型」で述べることによって、自分の立場や考えを4年生でも明確に伝えることができたので、話合いの中で児童間の発言がつながり、話題がそれることなく進んだ。
- ・班で話し合った内容を全体に報告する際に「ラベリング」を使い、よりわかりやすい報告にしようと、班の中で活発な意見交換が見られた。「ラベリング」には短い言葉で的確に述べる力が求められるため、「頭括型」と比べると難しい技術だったと思われる。
- ・「ナンバリング」は型が明確なので、4年生でも身に付けさせやすいことが分かった。根拠がいくつあるか数字で整理するためには考えることを要する。そ

のため、ナンバリングを使うことにより、主張やその根拠が明確になり、聴き手にも明確に伝わる。そのことから、児童間の発言内容につながりが生まれた。

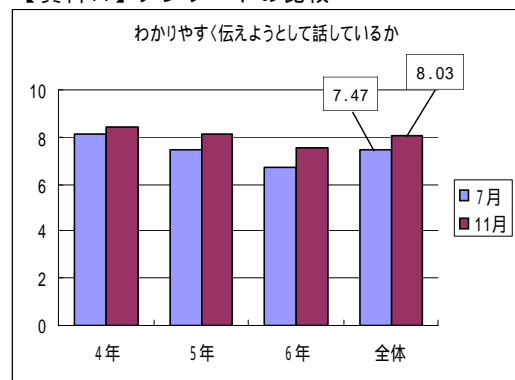
- ・「必要な情報の選択」の技術が確認できた児童には、確認できなかった児童と比べ、主張に対して根拠の筋が通った発言が多かった。ただし、相手によって必要な情報は変わるため、相手意識の薄い4年生には難しいと思われる。

オ わかりやすく伝えようとする意識

- (ア) 検証の方法：選択式1問、記述式1問のアンケートを取り、集計・分析する。
- (イ) 対象：所属校の4・5・6学年児童、計30人
- (ウ) 時期：2008年7月中旬と11月下旬の2回
- (エ) 「あなたは、相手にわかりやすく伝わるように話していますか。(選択)」

質問に対し、児童には1～10の数値で自己評価をさせた。全体の7月の平均は7.47であったのが11月には0.56ポイント上昇し、8.03になった(資料11)。このことから、児童の「相手にわかりやすく伝えようとして話す意識」の向上が確認できた。それは、「情報を整理する技術」を使うと、わかりやすくなることを実感できたからだと考えられる。

【資料11】アンケートの比較



注) 児童には10段階で自己評価させ、7月の結果と11月の結果を比較した。

また、技術を身に付けることにより、自分の考えを上手に話せるようになったと感じ、そのことが自信につながり、自己評価の上昇につながったと思われる。

検証授業後の「振り返りカード」からも、そのことが読み取れる感想があった。

- ・「自分の考えを友達に上手に伝えられたから気持ち良かった。」(4年児童A)
- ・「自分の伝えなかったことを、短くまとめて伝えられたし、みんなの発表もわかりやすかったので、モヤモヤがなくスッキリした。」(6年児童S)

- (オ) 「国語科授業で、話すときに気を付けていることを教えてください。(記述)」

【資料12】「わかりやすく伝える力」にかかわる回答をした児童数と内容

		7月中旬	11月下旬
調査した児童数		30	30
回答した児童数		4	25
%		13.3	83.3
回答内容	わかりやすく伝えること	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが分かる言葉を使う ・自分の言葉で話す ・要点が伝わるように話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論を先に言ってから理由を言う ・ラベリングする ・ナンバリングする ・必要なことを落とさないように言葉を選んで話す ・5W1Hを意識して話す ・メモに整理してから話す ・「わかりやすく伝える虎の巻」の技術をなるべく使う
	相手意識		<ul style="list-style-type: none"> ・相手の反応を見ながら話す

質問に対して「わかりやすく伝える力」にかかわる回答をした児童数は、7月中旬には全体の13.3%であったが、11月下旬には全体の83.3%に増え、わかりやすく伝えようとする意識の高まりが確認できた（資料12）。

また、11月下旬の調査では具体的な技術が回答に多く表れた。

この変化の要因として、「情報を整理する技術を身に付けさせる取組」を続けてきたことで、技術が知識だけではなく実際に使える力として身に付いたことが挙げられる。

また、「情報を整理する技術」を使えば、よりしっかりと伝わることが実感できたからこそ表れた変化であると考え。それが、相手にわかりやすく伝えようとする意識の高まりにつながったと考える。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

ア 「情報を整理する技術を身に付けさせる取組」は、「わかりやすく伝える力」の育成に有効であることが分かった。

イ 「情報を整理する技術を身に付けさせる取組」は、情報を整理しようとする意識の向上にもつながり、それが「わかりやすく伝える力」を育成するのに有効であることが分かった。

ウ 「情報を整理する技術を身に付けさせる取組」は、意見交換を活発にし、児童間の発言につながりを生み、話合いの質も高めることが分かった。

(2) 今後の課題

ア 本研究では、4・6学年を対象としたが、より多くの教師の意見を取り入れ、「情報を整理する技術を身に付けさせる取組」について、低学年も含めた学年別カリキュラムを作成していきたい。

イ 「わかりやすく伝える力」の育成に向けて、本研究で扱った五つの技術の他にどのような技術が有効であるか、また、それぞれの技術をどの学年で扱うのが適当であるか、研究を深めていきたい。

注

- 1) 国語力向上プロジェクトとは、「他者を理解したり、自分を表現したり、社会と対話したりと、未来をひらく『意味ある人』にとって、国語力は不可欠な力である。そこで、すべての教育活動を通じて、子どもの論理的思考力、表現力、語彙力等を確実に育成していく」ことを目的に、2007年に静岡県教育委員会が始めた事業である。
- 2) 北部地区研修推進委員会とは、隣接する5学校（4小学校1中学校）が連携し、人間関係力の育成及び学力向上を目指して、教育課程・指導方法及び評価方法を開発するとともに小・中学校間における人的交流の拡大を目的として、2005年にスタートした機関であり、各学校の研修部に属する教諭と教務主任とで構成される。

参考文献

- ・有元秀文著『国際的な読解力を育てるための「相互交流のコミュニケーション」の授業改革』, 溪水社, 2006年.
- ・市毛勝雄監修 浜松市立広沢小学校著『論理的思考力を育てる授業』, 明治図書, 2006年.
- ・井上尚美著『思考力育成への方略 - メタ認知・自己学習・言語論理 - <増補新版>』, 明治図書, 2007年.
- ・小森茂著『「伝え合う力」の育成と音声言語の重視』, 明治図書, 1999年.
- ・倉澤栄吉・野地潤家監修『朝倉国語教育講座 3 話し言葉の教育』, 朝倉書店, 2004年.
- ・『教育科学 国語教育2007.11』, 明治図書, 2007年.
- ・『教育科学 国語教育2008.4』, 明治図書, 2008年.
- ・『教育科学 国語教育2008.10』, 明治図書, 2008年.
- ・教育研究開発センター編『B E R D NO.10』, Benesse教育研究開発センター, 2006年.
- ・教育研究開発センター編『B E R D NO.11』, Benesse教育研究開発センター, 2006年.
- ・教育研究開発センター編『B E R D NO.13』, Benesse教育研究開発センター, 2008年.
- ・村松賢一著『対話能力を育む話すこと・聞くことの学習 - 理論と実践 - 』, 明治図書, 2001年.
- ・長崎伸仁・山口国語授業研究会著『論理力をはぐくむ国語の授業』, 三省堂, 2008年.
- ・難波博孝・三原市立木原小学校著『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』, 明治図書, 2006年.
- ・大内善一著『「伝え合う力」を育てる双方向型作文学習の創造』, 明治図書, 2001年.
- ・三森ゆりか著『言語技術教育の体系と指導内容』, 明治図書, 1996年.
- ・三森ゆりか著『徹底つみ上げ式 子どものための論理トレーニング・プリント』, P H P 研究所, 2005年.
- ・文化審議会答申『これからの時代に求められる国語力について』, 2004年.
- ・中央教育審議会『教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ』, 2007年.
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』, 2008年.
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 - 国語編 - 』, 東洋館出版社, 2008年.
- ・視察研修資料 福岡教育大学教育学部 (2007年, 2008年),
北九州市立朽網小学校 (2007年, 2008年).